

1市4町新ごみ処理施設整備計画

200億円の住民負担 自然・文化・生活環境に甚大な影響

アクセス道路など課題山積

彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設建設整備計画が、西清崎を候補地として進められています。10月18日、環境影響評価方法書素案について住民説明会が開かれ、西澤議員も参加しました。排出物、臭い、振動、景観、土砂災害、搬入路など環境に与える影響評価作業案が説明されました。参加者からは水環境や搬入路など様々な疑問点・要望などが出されました。

今回の新ごみ処理施設建設設計画は、彦根市清掃センター（S52年稼働）と4町のリバースセンター（R9年稼働）を統合するものです。説明によれば、彦根の施設は43年が経過し、老朽化は否めず、4町のゴミ固形燃料化は、引き取り先の確保が難しく、運送経費も大きな負担になっているとのこと。

異常気象・環境問題が世界的に課題となっているとき、環境に負荷をかけないゴミ行政は喫緊の重要課題となっています。人口が激減する中、資源「ゴミ」の分別強化が求められている時代に「天型化」は矛盾します。

廃プラ・廃油も焼却？
しかも、策定された基本計画「では熱効率を高める」との理由で廃プラスチック・廃油を焼却する選択肢も記載されています。徳島県上勝町ではゴミゼロをめざし、徹底した分別で「リサイクル資源販売収入」を生みだしている取り組み

大型化でいいのか？
出てくるゴミをいかに処理するかではなく、いかにしてゴミを出さない経済社会にするかに転換することが求められています。



甲良町の財政負担は？

＜市町の負担割合規定に基づいて試算＞
◆施設整備費＝約200億円
◆国の交付金＝約60億円
◆残り140億円を市町で分担
均等割（総額の2割を1市4町で分担）
28億円÷5＝約5億6千万円
人口割（総額の8割を人口規模で分担）
112億円を人口割合で分担
1市4町の合計15万4,374人（基本計画のH31年推計値）
1人当たり約7万2,500円
約7万2,500円×人口6,799人＝約4億9千万円
合計負担額＝約10億5千万円

も行われているのです。

新アクセス道路は問題だらけ
説明会では焼却施設へ1日400台余りのパッカー車が通過することによる住民の不安が多くなされました。

荒神山の麓は、歴史と文化が豊かで彦根市の観光誘致計画があり、地域住民も自然環境を守り大切にしている地域です。

今は候補地として環境影響調査の準備段階で、「建設地」として確定しているわけではりません。にもかかわらず、新たなアクセス道路が提案されました。

荒神山をぶち抜くアクセス道路の計画は問題だらけです。●広域組合議会でも明らかにされていない。●荒神山の信仰・自然・文化を台無し。●数十億円の新設費用がかかる恐れ。●その費用を4町に押し付けてくる恐れあり。

日本共産党の提案要旨(抜粋)
◎広域化による大型化ではなく、現在の「彦根市清掃センター」と「4町リバースセンター」の枠組みで計画を見直すこと。
◎環境負荷をかけないよう、熱効率・熱回収を口実として廃プラ・廃油を焼却しないこと。
◎建設費の負担割合は不公平。犬上3町の負担は住民一人当たり換算すると彦根市の2倍強となる。

甲良民報
2020年11月8日 809号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在土373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
◎日本共産党の見解を紹介！ ます。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】